

事業名	新型コロナウイルス感染対応緊急支援助成 「支えあう多様なコミュニティづくり」事業 最終審査会
開催日時	2022年5月14日(土) 13:30~17:00
会場	熊本YMCA
目的	書類審査通過後のヒアリングを通してブラッシュアップした申請団体による発表や質疑応答を踏まえ、助成先(10団体程度)を決定する。 ⇒各申請団体が他団体の発表や質疑応答にも参加し、お互いにフィードバックし合うことで、団体同士の関係性を育み、今後の連携・協働へつなげる。
参加団体	1次審査通過15団体 NPO法人せいしとらんし熊本／「やっちろ保健室」運営協議会／子育てネットワーク「縁側moyai」／ NPO法人コロボックル・プロジェクト／ハンズハンズ／子ども支援活動ボランティアグループ ゆめの絆 ∞わらびがみ(童神) ドルフィンワークス株式会社／一般社団法人minori (KUMASATOコンソーシアム)／ 一般社団法人オルタナ／NPO法人NEXTEP・株式会社 南阿蘇ケアサービス／一般社団法人sol 一般社団法人フミダス／ワールドフレンズ天草／NPO法人天草みどりの村 参加人数:会場41名・オンライン14名 合計45名 ※会場では検温・体調チェック表記入済
審査委員	久間 孝志 氏(熊本日日新聞地域報道本部地方都市圏担当部長) 板橋 麻里 氏(熊本県男女参画・協働推進課 課長) 河合 将生 氏(office musubime 代表) 光永 尚生 氏(公益財団法人熊本YMCA 理事長) 本司 貫 氏(税理士法人 近代経営)
スタッフ	中村賢次郎・宮原美智子・小田川望・本多清美・小笠原 晟一
内容	●プログラム 13:30-13:35 主催者あいさつ 13:35-13:40 今日のねらい&進め方の共有、審査委員のご紹介 13:40-14:40 助成金500万円以下計6団体の最終審査 【1団体につき発表5分+質疑応答5分】 ① NPO法人せいしとらんし熊本 ② 「やっちろ保健室」運営協議会 ③ 子育てネットワーク「縁側moyai」 ④ NPO法人コロボックル・プロジェクト ⑤ ハンズハンズ

	<p>⑥ 子ども支援活動ボランティアグループ ゆめの絆∞わらびがみ(童神)</p> <p>14:40-14:50 休憩</p> <p>14:50-16:20 助成金501万～1000万円 計10団体の最終審査</p> <p>【1団体につき発表5分+質疑応答5分】</p> <p>① ドルフィンワークス株式会社</p> <p>② 一般社団法人minori (KUMASATOコンソーシアム)</p> <p>③ 一般社団法人オルタナ</p> <p>④ NPO法人NEXTEP</p> <p>⑤ 株式会社 南阿蘇ケアサービス</p> <p>⑥ 一般社団法人sol</p> <p>⑦ 一般社団法人フミダス</p> <p>⑧ ワールドフレンズ天草</p> <p>⑨ NPO法人天草みどりの村</p> <p>16:30-16:40 今後のアナウンス</p> <p>⇒審査委員は別室へ移動して助成先を決定(発表は後日)</p> <p>16:40-17:00 交流タイム:「いいねカード」の交換等</p> <p>⇒各申請団体の参加者には「いいねカード」15枚を配布</p> <p>⇒各団体の発表等を聴いて「いいね!」と感じたことをカードに記入し、それぞれの団体の封筒に入れる。終了後代表者が持ち帰り、自団体で共有する。</p>
<p>審査会①</p> <p>500万円以下6団体</p> <p>審査委員よりコメント</p>	<p>【NPO法人せいしとらんし熊本】</p> <p>○性教育に特化していてわかりやすかった。○連携と対話が具体的で分かりやすかった。○いろんな施設に絵本を置いて、せいしとらんしさんとの接点ができていくのが良い。他の団体と違うところ。○包括的性教育と言う所の考え方が①人間関係、②価値観、人権、文化、セクシュアリティ、③ジェンダーの理解、④暴力と安全確保、⑤健康とウェルビーイング(幸福や喜び)のためのスキル、⑥人間の体と発達、⑦セクシュアリティと性的行動、⑧性と生殖に関する健康の、一般的な性教育として扱われる⑥⑦⑧だけでなく、①～⑤も大事な部分である、といったところがなるほどと納得した。また、代表1人ではなくチームで分担して取り組んでいくのも高評価。関係者との対話や連携は今後に期待するところである。○「包括的性教育」の考え方が、従来の性教育の観点と違って、子どもたちからの視点であり、非常に有意義な事業だと思った。</p> <p>【「やっちろ保健室」運営協議会】</p> <p>○今日の発表を聞いたら、既にいろんな業種との連携が動いている感じがあったので、そこがよかった。○プログラムを作っていくプロセスに楽しみがあった。○学びの教材を作る部分に予算を取られていたが、作ったものにどのようにアクセスしてもらおうかをもっと聞きたかった。○「ささえびと」という、人材のプラットフォームを整備するために、いろんな団体の枠を超えている人材を登録する、というのは、連携と対話の可能性を感じた。一方でコミュニティーの範囲がわかりにくかった。どのようにコミュニティを作っていくかは、今後に期待する。○すでにネットワークがかなり強化されつつあるのを感じた。団体法人化まで計画的に考えられていると感じた。</p> <p>【子育てネットワーク「縁側moyai」】</p> <p>○内容が具体的でやりたいことがはっきり見える感じがした。やりたいことのわかりやすさは、参加する側にとってのわかりやすさにも通じると感じた。○期待感が持てる内容でわかりやすかった。受講者が指導者になっていくという継続性のイメージをハッキリ持っていることが評価できた。○予算に、視察に関する経費が占める割合が大きかったので、視察したものはどのように活かされるかの部分が物足りなかった。また、長年活動されている団体なので出来上がったコミュニティーに新しいママが入りやすい仕組みができていないかを質問したかった。○居場所=拠り所であり、物理的な場所ではなく、それぞれの拠り所を作っていくという部分が評価できる。そういう</p>

	<p>形の居場所の展開は広がっていきそうだという期待を持った。運営のやり方については、常勤スタッフではない形をとり支え合う仲間運営を工夫していくというのは、子育て当事者がやっている団体らしい運営で、継続性がある。旅費の使い方の変更は、近くの団体には出向いて遠くの団体には来てもらうということだったが、視察の形は、もう少し良い形を見つけられると良い。○コロナ禍の中で特に子育て中のママたちのニーズがあると感じた。そこで支えてもらった人が支える側にまわるという循環があることで活動の広がりに期待ができる。</p> <p>【NPO法人コロボックル・プロジェクト】</p> <p>○環境保護団体の老舗であり、知名度もある団体からの申請としては、ホームページを作るという内容では、信頼に欠けると感じた。次のステップに向かってのやりたいことであれば違ったかもしれない。○つながりや継続性については考えられていると思ったが、変化の時代に、新規に事業をするのか、これまでのものを継続していくのかで迷いがあられたのではないかと感じた。○ホームページ制作は、予算にあっただろうか。予算は細かく積み上げられていて、丁寧さが伝わり、高評価であった。○ホームページやプラットフォームを作って、利用者の視点に立ったときに選べるようにするというものは期待される部分であるが、コロボックルがやるべきところか。団体を知っているだけに、もっと自分たちらしいところを突き詰めて前面に出してもよかった。○自然体験の良さや、団体の強み等をもっと前面に出した説明にしてもよかった。これからステップアップされるには、ネットワークの広がりを入れられるとよかった。</p> <p>【ハンズハンズ】</p> <p>○子供食堂を中心とした地域のお祭りということだが、ちょっとこじんまりしていた印象を持った。○祭りの再興であるが、取り掛かりやきっかけづくりの次の段階に進んで行かれると思うので、もう少し中期的なステップを見通せるような計画の作り方をされると、人口が増えているプラス要素もあるので、そのことと連動して良い方向性が出てくると思う。○予算の積み上げが法人設立のための司法書士費用だったりで、どうせお金を使うなら、創造的なことに使って欲しいと感じた。○お金の使い方とプレゼン内容が合っていない印象を持った。地道に居場所作りをやってらっしゃる団体である。お祭りを通してつながりづくりをするというのは、実際にやってみて、人も来て、必要なことだとは思いますが、集まって楽しいことをやるだけなのか？なぜお祭りが必要なのかを打ち出せないと、手段としてのお祭りが目的になってしまう懸念がある。去年も多くの方がいられている事実があるので、なぜこのお祭りが必要なのか、どういう参加のあり方が良いのか。声を聞きながら考えていってもらえればと思う。○子供食堂で祭りをやるならではの特徴があったらよかった。祭りをきっかけにしてこんな風になりたい、広げたい、というのを、もう少しお聞かせいただければ良かった。頑張ってらっしゃるので、祭りをやるためであれば、他の助成金も利用できるのではないかと。</p> <p>【子ども支援活動ボランティアグループ ゆめの絆♡わらびがみ(童神)】</p> <p>○人口減少問題を抱える天草において実績ある団体で、期待が持てる。○子供とシニアの異世代間交流を推進することで活性化につなげよう、という部分が特徴として感じた。○具体的で分かりやすかった。付け加えるなら、例えばNPO法人子育てネットワークわ・わ・わさんとのコラボなど、天草地域の既に活動されている団体との連携について話があるとよかった。○行政と民間の担う部分の整理と、地域コミュニティの核が必要という部分が、課題の分析を丁寧にしていると感じた。広い天草地域でどんなことをどんな順番でやるかの戦略性が考えられているところが評価のポイント。一方で、ネットワークを作っていくところは、具体性が欲しかった。○天草の方で特にこういうニーズがあると改めて認識した。その中で天草地域が一体となって取り組もうとされている。SDG'sも取り組みに入れられている点良かった。</p>
<p>審査会② 501万円 ～1000万円 9団体 審査委員 よりコメント</p>	<p>【ドルフィンワークス株式会社】</p> <p>○コロナの影響で女性が苦しんでいるというのは分かるが、親子で企業というのがこの助成事業の対象となるか、あまりピンとこなかった。実際に起業まで行くと考えると時間もかかる。起業塾という事業が成功しても、本当に対象者が起業につながるのというのが見えにくかった。○複数の対象や複数の事業なので、もう少し選択と集中をして、成功体験のある事業から膨らませていった方がいいのではと感じた。内容はいいものもあったので、その部分を工夫したらいいのではないかと。○1000万円使って事業を行ったとしても、効果が見えにくいと感じた。また継続のために収入について質問したが、答えが曖昧で、あまり深く考えていない印象だった。○実際に相談を受けている相手を何とかしなければいけない対象としてとらえているというのは大切なことだと思う。ただその方に対するアプローチとして「起業する」というのがふさわしいのかどうか。お金</p>

の使い方も謝金という部分が多い。助成金が講師に使われて、実際の受益者がどう変化していくかが見えなかった。○熊本では女性の起業は進んでいないのだと感じた。新たなチャレンジとしての活動は応援したいと思う。【一般社団法人 minori (KUMASATOコンソーシアム)】

○発達障害の人を対象としているのは、今回の事業の「支えあう多様なコミュニティづくり」という意味での対象としては重要だと思うので、そのフォーカスしている点は評価している。○コミュニティがさきでそこに悩み事が付いてくるという発想は、スモールコミュニティの形成とそこに参加する人達を育てていくという考え方は大切だと思う。○自分の評価は高い方だったが、アドバイスをするとすれば、事業のプレゼンのやり方として、まずは仮説を立てて実践してみて、良かったから事業としてやるということが付け加えられていたならよかったのかもしれない。○助け合いサロン、悩み貯金など、なかなか相談しにくいという課題について、相談しやすくなるインセンティブとなるというのはいいと思う。まずはコンソーシアムの中からはじめて、地域ともかかわりながら、コミュニティの中で支えあう仕組みづくりという発想は大切なことであり、ぜひ取り組んでほしいが、内容に具体性がなかったのが惜しかった。より具体的に進めていけば、他の団体にはないアプローチであり、社会にとって必要なものができるように感じる。○相談しやすいきっかけづくり、そこから新たなコミュニティづくりとしては広がり期待できると感じた。

【一般社団法人オルタナ】

○農福連携の実績もあり、なぜ農園なのか？という説明の部分について自分たちでしっかりわかっているというのが高評価だった。○現在の位置からこれからの見通しの中で、相談支援者というところの協調がすごく印象的だった。そのつながりを快く感じた。○よく知っている団体で、農福連携の実績もあり、ここならやってくれるという期待がある。○相談支援者の在り方やネットワークを、この事業を通じて変えていくか。どういう風に相談を受けていくか。記録が重要という質問もしたがしっかり考えられて答えられているので、そこを丁寧にやってもらいたい。休眠預金事業としての効果を期待している。○農業に特化したネットワークを広げてさらに強化し、実行可能性という意味でも法人化までつなげてほしいと思う。

【NPO法人NEXTEP】

○これまでの実績に裏付けされた自信のようなものを感じた。プレゼンを含めてやってくれるという安心感があった。○伴走型のプロジェクトを今後どうやって行くかということでチャレンジしていると感じた。○強いニーズがあるのかという疑問はあるが、団体の実績などを考えると実行可能性や継続性という面で高評価。○多岐にわたる事業を展開するので本当にできるのだろうか、事業内容が多いので、計画通りにできるかという懸念はある、積み上げてきた実績があつての事業計画なので、特居住支援というのは社会的ニーズの高い部分であり、他の団体でもできるモデルケースにするということなので、今後の広がりにも期待したい。○ハード的な事業も、ソフト的な事業もでもやっていくということなので、大変だとは思いますが期待したいと思う。

【株式会社 南阿蘇ケアサービス】

○もし申請が通らなくても、自分たちでやろうという覚悟が感じられたところが高評価。○南阿蘇という地域でシームレスケアにチャレンジするというのがとても印象的だった。○予算を見ると機械類の購入が多いが、具体的な値段を示しているのだからちゃんと見積もりを取って計画を立てるようだ。もうすこしクリエイティブに使ってほしいとも思う。確かに自分たちがやるという覚悟が見えた。○跡地利用で拠点整備ということは理解した。休眠預金事業としてやるのはソフト部分であるが、そのソフト部分であるシームレスケアの中身はまだよく見えない。しかし、まずはやってみて、変化しながら、多世代のつながりという部分はなるほどと思った。プログラム作成の部分に注目したいと思う。○ハード面がすでにあるという安心感がある。南阿蘇の拠点となってほしい。

【一般社団法人sol】

○発表の内容がわかりにくかった。フォークスクールを引き継ぐということを超えて、助成事業の主旨に合う活動につなげてほしい。○薪割りなどの具体的なアクティビティからアイデアをつないでいって、作業療法士の専門性を加えるというアイデアは大切だと思う。そういった統合していく力は期待したい。○資金計画を見ると、お金の使い方がざっくりしている。もう少ししっかり計画を立てるべき。○廃校利用の居場所づくりをして、そこでいろんなプログラム展開というイメージは分かるが、もう少し具体性が必要。作業療法士さんのかかわりは見えるが、イメージ図を見るともう少し他の分野の人とのかかわりが必要ではないかと思い、質問してみたが、結局引き継ぐ

	<p>団体の名前しか出てこなかったのもう少し広がりが必要。○作業療法士を中心とした新たなネットワークに期待したい。</p> <p>【一般社団法人フミダス】</p> <p>○プレゼンの熱意は伝わってきた。内容がキャリアプログラムということで、助成金の主旨に合っているのかは疑問はあるが、若者が地域に残るならば意味がある。○熊本市と人吉地域で成果を図ろうとしているが、つながりが弱いと感じたので、YMCAでもよくつかわれる、「離れていてもつながっている」という部分を期待したい。○対象が若者や高校生ということで、対象が他の団体とは違う点は評価したい。地域が人吉対象というのも良い。ここならやってくれると思う。○若者のキャリアデザインやプログラムとしてはすでに完成されている物。コミュニティづくりとしては確かにその要素は弱いと思うが、若者が地元の良さを再発見する、地域とのつながりという部分で期待したい。○コロナ禍で就職難というのは実感している。他にない対象というところで特徴を感じた。まずはモデルとして熊本市人吉地域で実施してもらい、他の地域へと広げてほしい。</p> <p>【ワールドフレンズ天草】</p> <p>○助成事業が多様なコミュニティづくりということなので、対象となる人にもバラエティが必要だと思う。そこを踏まえて対象が外国人という事業は重要だと思う。○多様なコミュニティは大切に、資料を見ると数字的なエビデンスも含まれ、質問に対する答えも的確だった。○こういった助成事業だと、HPなどを活用するのが多いが、アウトリーチという自分たちが行くという姿勢が良いと思う。予算の使い方も具体的で高得点。○評価するポイントは3つある。①居場所のとらえ方として、日本語教室がベースになっているという部分で、ワンストップの窓口になっていくと思われる。②相談内容は団体の分野を越えていくことも想定しており、暮らす人に必要な支援を広げる取組なので重要だと思う。③外国人を雇用する企業の調査も進めるとのこと、企業の社会的価値を上げていくことになる。それが関わる人を広げていくことにもつながり、地域の多様なコミュニティづくりに期待が持てる。○外国人というテーマも大切である。今までの活動もされてきているので、どうステップアップされるのか期待している。</p> <p>【NPO法人天草みどりの村】</p> <p>○申請内容の熟度が低いという印象。この団体のことはよく知っているが、キャンプ場を活用した課題解決というのは方向性は間違っていないと思う。実績を積んで、その先を考えてほしい。○地域との親和性も高い活動であり、継続することに意味があると思うので次へのチャレンジも含めて今回の経験を参考にしてほしい。○野外体験をすることで、引きこもりや不登校児の居場所づくりというのは論理として飛躍しすぎていると思う。事業の内容は実際には既存の事業の延長という印象。せつかなので新しいことにチャレンジしてほしい。○従来から実施している自然学校であったり、野外活動体験がもつ価値が本来はあるはずで、それを言語化できていないと感じた。不登校の子供たちが参加しやすい何か(理由)がそこにあると思うが、それを言語化していくことが今後活かされると思う。○天草みどりの村が中心になるということなので、ネットワークづくりで大変そうだった。そのひとつの例として不登校児の活動ということでの申請だが、他の活動も考えていると思うので、そのあたりを広げていってもらえれば。</p>
<p>審査結果</p>	<p>通過10団体</p> <p>助成金額500万円以下</p> <p>⇒NPO法人せいしとらんし熊本／「やっちょろ保健室」運営協議会／子育てネットワーク「縁側 moyai」／子ども支援活動ボランティアグループ ゆめの絆∞わらびがみ(童神)</p> <p>助成金額501万円～1000万円</p> <p>⇒一般社団法人オルタナ／NPO法人NEXTEP・株式会社 南阿蘇ケアサービス／一般社団法人sol／一般社団法人フミダス／ワールドフレンズ天草</p>

審査会

挨拶

最終審査会の様子



発表



交流会

